

823  
N13 N2

紙  
以  
入  
進

橋  
姫

45



橋非

十六歳

秋佐右近中將又任宰相

宇治八文暇思有二人変

師八海角君ト申味者中忍ト申

母君卒去之変

京文書と移宇治江行事

此已上事當年以前之事なり

宇治阿因梨系冷泉院之次八文御有極治中

宰相中將候御前御後

美由乃八房小僧よりくるの秋をうける

冷泉院付阿因梨送御消息於宇治文後

美由乃中將系宇治系

習法又等変

十七歳

十八歳

事在中將宇治八文心をやつゝ内つゝよりとて縁計

少ぬれより美由系宇治系よりくる年

美由系宇治系



馮宿直人垣間見

以琵琶撥拈月夏

見衆老人事

齊凡志

老人抱孤孫  
門前苦竹  
竹首黃

曉歸時

明  
月  
奉  
文  
啟  
宇  
派  
東

右近將監沈使送儀之布旒拘不受

八文自寺出後日

薰中納糸白芳冰心許浩申字伯昭五福多

十月五六日比荏苒中氣寧活事

金匱要略

寧治文君中乃比巴

八文函交申付中州信局

曉方石每石同光日拓治鐵錐

奉右承之文入館事

歸來象二象宮作

宇治

或抄云は地沼るゝ也  
獨意より足跡夢の浮傷  
早て命に也之てハ

武部とらふとらふ成人のヤ坊々々宇居十北の女の大武

二後より  
 其記述あり  
 之  
 海  
 七  
 八班虎  
 史記  
 七  
 七

あつとまゝ  
班固出つてゐるふ  
へ

大哉三位ハ石門取安定尊ヲ  
世王子後一氣流御乳母叙三位

先  
宇佐十北と八丈裁二位と心と云々之類月  
凡  
筆式記  
島女

花雪ふりさけ  
紅梅竹川より  
浪のぞし混れり  
久しハ又時代

つるふくせふ

秘

宇治十帖の事娘に云氣と信う兼といふ誤を御説ふ可し（其氣）

又、前より進んで、  
定憲部、萬小  
此と、いつ、  
成る、  
是、  
ハ、  
と、  
よ、

新とくふし時以代年七十年ものゝ代々あるあふを方ふを

人の魂はいつまでも心の中にありて其の代りあるべし

乃々りむと却々  
 乃々りむと却々

此物治之法所史記より先相意より句文より古七所より

[illegible]

十七板紙八列傳七十卷又擬五石外史又文法新編又











花をよとれて一のきねとてくすり花を水と成忠寺友  
源氏物語年まゝして副作の物語り件、妙、八年齡のお返  
をいれりその名をいふ前よりきくと云ふ

花の清水よりくすりへくすりれりぬるきみかりけり

の字は文相意才八御子母方大臣女し号八宮又優座塞文　　今と御位

之時に紅雲を始し刻一日に同時のりしき中お昇をい  
下ふくさひ合をへし　　今と八宮のときとてさる

魚が事ややばき中將の字はふれてはつるきとてさる  
事お中ねとさゆり又紅雲のおくきとてさる細きとてさる

きくき見ゆり時をきくの十さきの時をへし　　いさぬきとて  
風あきぬ（ゆり）ゆりゆり　　後の事は　　今といふとてさる

より風をぬく八相意才御子に較ぶるよりぬくぬくとてさる  
秘　　おとる八まじけきの事前よりいさるきとてさる

時よりの中よりきくきとてさるきとてさる　　いさるきとてさる  
今とてさる今とてさるの御位とてさるきとてさる

母　　今とてさるきとてさる　　秘　　大臣の娘の女御とてさる  
今とてさるきとてさる　　今とてさるきとてさる

今とてさるきとてさる　　今とてさるきとてさる　　今とてさるきとてさる  
今とてさるきとてさる　　今とてさるきとてさる　　今とてさるきとてさる



とらふれちてお候る人へはねたはみ事のつらきをしるし  
秘ハミをまゝあてたまふ處にこそ

けつりて世中ばうらやまもたぬが

必大衆はとうとたてはる御中をくくつたりし末代にて  
うらやまのつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘冷泉はまゝよきまゝにけり故大衆をばハミととりて  
うらやまのつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

矣  
物うらやまのつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘徳角れちて後ふ大衆とて

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも

秘ハミの山のつらきもれはるものこはくくあはれ  
ふるはつらきもつらきもつらきもつらきも







秘  
あまのまじり  
まじり

義  
禮  
方  
孔  
也

秘しに事をもてしに花散りもたし人を半のうを  
多にぬちさすのうらもおのけももたしゆ

[illegible]

五  
又小力より中世然るを云ふ

河篇實

梁大同九年二月廿八日黃門侍

郎兼大學博士顧野王撰字廿万九千一百七字凡卷五百六部

秘  
玉篇の玉字篇とて  
此の玉字篇とて  
此の玉字篇とて

大石河とくふちうり

美 中 心 的 い づ れ も と り ぐ ち

必ありてしる

吾心より又驚きと唯唯とるれぬと一川の恥ぢるも  
 今當りにも志ありといふに秋も美し清くも恥ぢるも  
 恥ぢるもいとくはまふに恥ぢるもいとくは恥ぢるも

八五  
秘  
きり ぼろ ぬき 揚 しく 威 する へて 清 々 々

此は前記の如く、この世の事柄をいふ

ゆりうゆとろこはりのみとさうつふの物語第二巻やう

あゝいゝさなりのうゝさほ  
ひのちひ

氣に先づかりのこはるゝ宿りてうたん 昔出づり

わゝまふりにかりるひかりのまをそとせ

何より一室の御好むに如くある

花をうゝにれいれにふり 少めはるはみそととまり  
りれとりのみふをてよりりふち候のむし大いふ定ぬ

常により別のあるを不立とあるを定とすや

[illegible]

家  
假のそつしとまけんはそとをいふ鈕のとあり當時を讀

[illegible]

しういふにけふはしう

秘  
八文といふ



わが身はあまのりや 貴 暇をとりつゝは 終ふかゝるよき衣をよき衣に

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

そりれさうつさうゆ 何 祝ハ又津波にけけよ根をよ

祝ハ又津波にけけよ根をよ 祝ハ又津波にけけよ根をよ

祝ハ又津波にけけよ根をよ 祝ハ又津波にけけよ根をよ

祝ハ又津波にけけよ根をよ 祝ハ又津波にけけよ根をよ

秘 見の海 又けりつゝのいさあつや

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 中忌の年ハ文より 悔きくも 葉ちるあめり

秘 大和物語に中務文の少きうせ給て 後いふにきくも

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

まの御ね

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

秘 けりあてふらとけてる海 まさけの趣ありてあり

乙未神天宮十五年 甲辰八月百



源阿直岐<sup>云</sup>能讀經曲即太子亮道雅郎子師馬天皇問云如  
倭汝博士亦有耶對曰有王仁者是秀也時遣荒云別放百海  
倣工仁十六年己王仁來太子師之習諸典籍欽明天皇  
十二年百海獻經論

學子志

に  
唱  
歎  
唱  
の  
秘  
又  
姉  
流  
る  
る

秘傳琴歌へまゝに唱ふ一巻

父帝少母世帝少

秘  
桐  
壺  
帝  
少  
女

うき世の中をくまなく歩き廻るは  
私にハハ笑の御意と云

常以吾之御心

之間の事多し

おちろの御方へ

秘 八雲のそとたの女なり その大長ふをいひつりくめをえり  
しにふのりのいふ

雅樂寮 職令曰雅樂寮頭一人乃至歌師四人儻師四人  
笛師二人唐國樂師十二人高麗樂師四人百濟樂師四人新

羅樂師四人腰鼓師二人以下畧之

源氏のかゝの御才よ八文とぞやてゝと

是にうゝりて八文の系馬の根よき  
 とりふ始より次第よきつゝ系馬を  
 先と後のし伏さたりとる根に  
 八文と長文とと弘徽及大后の

人知るゝと云ふ

美由少々

あけの御をいふ  
秘  
源氏に紙いり

ハ六条院の御事なり

いふに御印つみくふ  
秘源氏の御款款くくみくそし

ふんくふん  
ふんくふん

江戸の御所

うりいふにあらはしなりけり

京中少文多事

宇治と云ふ所より六里の所に可なり



宇治の山に上りてこれより八丈より往き

わが海の家ついでに

細代を近江小田と川とに

あまふちを田と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

細代の事 延喜式に

里の山に上りてこれより八丈より往き

秘 昔人より少方

八

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

いふと武抄物より及ん

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

後冷泉院御宇永承七年。秋毎に宇治の山に上りてこれより八丈より往き

とて武抄物より及ん

と補さるる先づり

秘 昔人より少方

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

いふと武抄物より及ん

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方

秘 上りてふちを山と河とにわたりし水矣とて治めしとてふこと  
いふと武抄物より及ん

秘 昔人より少方







内河系梨の八文の御

吟泉院の事心平号の後を

こはのへ

卷之五

神聖なる

齊

八文の紙へ

彼も光る雲の八重の川を渡りてと病の敷なりと

即ちその通りである

秘記を所々述懐のそふ海ふそふ御読うう先ふ海

殊縁々 妙妙 高克 横川 少々 天曆 西九 事々 々々 大和物語之類 卷六

蓮の亭 磯氏阿窓梨八文治中

蓬の何處にありしや

粒々如雪を却てうきとく

八雲の御みまへをすめりし

秘  
八文、刻  
因緣、  
々々

あふるをい

八

八文の買ひたるへい中と佛の

五、欠るるを、そのふいふに、そのふいふに、いぬを、

東洋の文化

時ふれとるを  
鈴とありきあはくそそ  
仁法の家さん



まそ入るぬきしはうゝもくあてさあへうをいふや  
うかひなりきふとふりたり

矢差のちもとくうてうてうていふなりきまゝにきつたもの  
なごころと本心なるものをしられん物なりは父の教をい  
ふかたよりうまい程なりきりてさへうじくぬかりし  
のりのむかしこそ

必法のむし

子之海

秘  
芝

意の字はかゝる

きふのうらむにきふ

荑のてふたしうりもあやうくと

その初め

宇佐のまゝりめを

私をいふはけと夢をいふ

河  
宇治川の浪の如くあふりて

うさぎの足跡

奥へまはる月付の守り窓の障子

そく吹くは

秘  
風

ふそそそそそそそそそ

之  
足  
ち  
る  
沸  
ふ  
く  
ふ  
く  
く  
心  
海  
ぬ  
り  
あ  
れ

英一 妙くてもおれを葉下にはいりて宿をねるすたれへんぞ。

乙卯年  
 二月  
 初九日  
 丁未  
 巳時  
 生  
 細字前中へ

細字に首中

ふのづのめーろ

秘  
羞の推定あり

三

突  
眼  
急  
死  
の  
病  
を  
あ  
の  
子  
に  
傳  
へ

てふりし

運上りて

秘  
芝の妙ありてるる中へ

何れをんて

秘衣

新あきふゆふゆふ

ふいふふふふふふふふふふ

河漢之塞

法  
優婆塞ハ梵諸君ニ  
勸ムコトヲ男といフ  
俗ナリ佛の教

後乃て以て此の事し才子をして  
 加賀彼公小角年三十二

わて家へ来てうへにふくまの法を教へてね

葉を食うて孔雀明王の咒をうて法を修して鬼神を

志すべし  
 是と後後  
 寒と寒  
 此山伏  
 の行ハ  
 是より  
 痕  
 ちん

六  
五  
うゝをくちまの推ろけをしとあねい

さういふ事をあつて

八文の法各一知へるは海

神子孫に

秘・  
ふりふり

寺々々々部道心なり

河  
宿

二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

受持戒のつゝ戒行と惠解とハ各別

字のハナハナと云ふ

秘  
全  
胃



としをけそそ骨し保ちるよりなる氏を貴月と云ふなり  
は設自帝何答況彼化慢奉天仙彈指

聖賢割心悲高野正覺上人

さうしん神花るんり  
ふれあうしんさ海なる地を

いあふんさうさ海にて  
八文の法又さう海に

あふんさうさ海に  
八文の法又さう海に

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛

ふれんを物のかをゆきふこの  
は天竺元親唯興善人佛







七月念日 何意留のきふより 終ふ

なりし 涙あふ 秘 蕉の句

まゝの 鉢酌し 秘 蕉の句

ふふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句

あふふふ ふうふう 秘 蕉の句



秘中

曲  
河海沆  
出處未詳  
一禪曰之云

秘中居初出遊之方事

おふくはるに月小のしほり

大予刻此巴の伝月小捺を<sup>云</sup>おつひ物たれはうり

くわむ月といふ陰月と云ふはくわむといふくわむといふ

規心覺獎月

ふんばるゝやとてし

首物よりなるふ  
必頃物治小町  
品花琴川のふと市物

今更文をくもりけり世に合せ給ひて来り

桑  
 葉のふつふつとけり  
 女のみちをわきま  
 川原

かゝる函子をいふてりし事あり

秘  
仁者物治うつる物治とさるる物よるる

うとわろけりまんとみけり

事とるにてもさるる事とていふより

矢村きせんの月の歌みくらめ







秘  
中  
心  
に  
あ  
る  
こ  
の  
こ  
ろ

を人の世といふは、蓋し座といふは、坐す所なりと云ふは、

突

つわい  
いそぐ

其のいふ人の転写を以て  
 げうの文の如し

うゑきり ぬきさくしめふ  
しに御ゆりたゝの奉る

此は之を味ふなり

そつた御らうのか  
芝のばあへのらうの深き草

月記  
海  
明

[illegible]

美ノタツキ  
鳴声タシカニヤ

りゝゐるの  
りの海

うゑつゝもや  
秘 たる如くきみ  
いゝとて

秘  
芝の心は涙り海たりと云

あふいふそのふてふてふてふて

みづからいそがしくおれんとお尋ねなす

あふく系々本ハ  
秘  
うろの如

このいゝいそ  
初めを

ふろしと

又ゆりも歌のよめやうめ  
何人命不浮過旅

水々今日雖存明亦難保何假令心住惡法溫盤經雲山鳥唱

之今日不知明日不  
死何故造作栖安穩  
无常为

[illegible]

和  
女こゑの御あしなのいひをきりし

小幡後を女こまの乳母の女くはそ人奇厄を柳木の乳母の女秘月

新女と文の乳母し  
初めはあつたが  
いふ年とすし  
小幡屋といふとこへ

ゆるかつたやいよう  
ゆるかつたやいよう

舟  
田舎よりし  
舟を八  
ありき  
るうへに  
ふんなり

けしき大納言に  
秘紅毒のちきり

契  
 紅毒ち長の事しち長少きうぬ  
 子たれ時良なりと

私共此の如くは、大抵の如く、  
なり

いりて居て居る  
此方の居るに  
いりて居る



も成りてそへはるハ

もとろへてさうさうはるまじハ

う成りていつてさうさうはるまじ

不及川ふれ

おれへさうせ給ふけぬ

蕉の年終さうさうはるまじ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへはるまじ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ

おれへさうの御乳母へ給ふおれへ



新わう家海もろくひんわう一様のあやまり旁とあやばり

秘め良のさぬきまのあひつや海の名あり  
は松尾山や海（山城）と推せざるはてしあり  
あらうり海とていふる

まいのいづつとてあて  
と大ま  
されわろ家のろくひんは常れいづとてあてさる  
矣此と用ひの神を言ふ  
不吐刻  
そくまあ海とていふるは常とてあてさるはてしあり  
さぬ海とていふるは常とてあてさるはてしあり  
いづつとていふるは常とてあてさるはてしあり  
いづつとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり

あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり  
あやまりとていふるは常とてあてさるはてしあり



矢葉のふれ敷ふはるゝあのとよりとくひをくらひわたり申とし  
<sup>格</sup>  
 りふられなれりてあめなかりきなりやまの道はいかりせう也

那志の御ふへ

寧海橋石上銘曰

條々往人

倚驕成市

欲起重深

莫知抗

也有釋子

名曰道澄

大化元年

丙午之歲

梅立此橋

爰發大願

結曰此橋

成果彼折

夢裡空中

導其首綬

自丙午歲到弘安七年甲午六百廿九年也  
大永六七其五寫之伏見殿御本

ふいふと云説より又一説は古太神の字の極小なる

清と云ふは、海に衣う。この海苔の酢味噌と云ふは、之

じふ<sup>二</sup>玉<sup>一</sup>をひへるゝ家と疾うにれと入られらけり水

楊柳の影をうけ梅の影に下  
 ハ芝草の影をうけ下

白芝の月にはくさくさ  
新心とくさくハハ巾とあやうる

夢中世八言漸く漢之海のうに記すの揮毫筆を  
 社

[illegible]

くわにふりあつてそれハおめとてあゝの居

美事を云

やの井のゝゐ

何  
を  
ふ  
時  
多  
う  
と  
ふ  
し  
詩  
小  
新  
ゆ  
と  
云  
ハ  
是  
也

秘  
疾  
ノ  
ヲ  
成  
時  
ヲ  
モ  
凡  
ハ  
命

*[Cursive signature]*

と  
う  
う  
う  
う  
の  
川  
を  
お  
ろ  
か  
し  
て  
ゆ  
く  
や  
袖  
と  
う  
う  
う  
う  
ん



秘眼忌の家もけしきと番詰い出まつて 今葉二二の白葉代  
方とひいてくわい下と耶ふふん多へい

秘眼忌の家もけしきと番詰い出まつて

うーつらけりて思ひてつらけりて大忌のちてふねあ  
うれいあふくうーつらん大忌の袖と句を葉の事と合し  
もうへい

秘眼忌一同のけしきと番詰い

はさけりて下にけりて物ありてふんはくもけりては  
ふとけりては

大忌のさけりては

ふとけりては

秘八文ゆりけりては

老人の物とけりては

秘毎にけりては

秘八文ゆりけりては

秘眼忌一同のけしきと番詰い

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘眼忌一同のけしきと番詰い

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては

秘八文ゆりけりては



とのかく

夢の如く

しんせう

河  
持  
名  
し

短衣

カリキヌ  
旧交  
本  
流

月とてえく孫ハ

萬  
方如意

五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

42

秘  
杜  
子

英々侍

錦鯨卷還容始覺意和平といふ歎

君を此君の如くあり

美  
明君大君

秘、  
忌とハ草子ノ字派ヨリハ知子ノ

二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

うめは巨なるてちやうたるに

三の字はうゑん

文庫新書

社

八文へはうとやう

たふ心字はうあしてりくあひまんと  
八文の約し

何ふやうな  
 私何うな

あゝん  
後をたし  
  
秘  
ふみ  
より、守  
ねひくと

秘

ふふふ、ふふふ、ふふふ

八文の前よりん後よりん一玄の尻

[illegible]

即ち之海の北よりい  
秘文の清綿をとり

秘  
八文し情綿なるなり

矣  
 多々と涙を流ひてをれとて母とて其の治るなりや  
 へより其の近き事なりとていふなり

ふめいそやふろちりし  
寺の事とちり  
流をやり節

穀のふりしとあり

とまねくふりやうりさん  
秘 白文 冬文 海

[illegible]

常し句文宇法よりぬくものなり  
紅梅をよるうた本々

あまふらり  
美卿のふらりなさん

てとるなりふを言ひ  
秘句をいふなり

矢  
草  
の  
文  
(  
衆  
の  
子  
是  
より  
白  
文  
と  
言  
は  
れ  
る  
本  
と  
あ  
り  
ぬ

珍事のぞふ字法へも  
 けういふとほふりて  
 されの事

う  
あつさめ  
宇治をきつめい  
う

まいとちよ  
白文の棠のこころをうりしに

[illegible]

うゝそのみかんより  
 安海より此より句より

いづれに  
秘  
葦の刻

秘  
芝の類



貴方忠意なりいせんをばつとささたりや  
あつたりハ 宇治の事

いふしを新しうもあひあひとせん

秘 貴方忠意なりいふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん

いふしを新しうもあひあひとせん



ふらふらふらふらふらふら

秘 八文

ありつる

そのあり

無念ふ

あふりのうら

甚様の事

経路を教

あふりもあふりもあふりも

何ぞ様下

ふらふらふらふらふら

秘 八文

義路なり

ふらふらふらふらふら

やれはふらふらふらふら

ふらふらふらふらふら

やれはふらふらふらふら

ふらふらふら

秘

八文の事

ふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

秘

八文の事

ふらふらふらふらふらふら

秘 八文の事

ふらふらふらふらふらふら

秘 八文の事

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

八文の事

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

秘 八文の事

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

秘 八文の事

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

秘 八文の事

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

秘 八文の事

ふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら







眼差の御ううとあて

ううとあてはれはれとす( 根がきこふとあてとす )  
お徳大納言は眼差の

ううとあて

夜の中に見るもさやさといふ

お徳大納言

一物せよと月( )

ううとあて

お徳大納言の祈( )

ううとあて

お徳大納言

ううとあて

お徳大納言

ううとあて

お徳大納言

ううとあて

お徳大納言

ううとあて

お徳大納言

ううとあて

お徳大納言

お徳大納言

ううとあて

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言

お徳大納言



矢  
毎々母御不乳母

喪  
初

の指とくわく

之  
恒  
費  
之

同

張長子源

わ  
る  
の

三

18

秘弁と書

卷之五

人  
之  
心  
也

いん

2. 2

秘

これより

冷泉院の女御との

五  
松  
の  
い  
り

22

21

道藏法師

22

樂

2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100  
 101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200  
 201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250  
 251  
 252  
 253  
 254  
 255  
 256  
 257  
 258  
 259  
 260  
 261  
 262  
 263  
 264  
 265  
 266  
 267  
 268  
 269  
 270  
 271  
 272  
 273  
 274  
 275  
 276  
 277  
 278  
 279  
 280  
 281  
 282  
 283  
 284  
 285  
 286  
 287  
 288  
 289  
 290  
 291  
 292  
 293  
 294  
 295  
 296  
 297  
 298  
 299  
 300  
 301  
 302  
 303  
 304  
 305  
 306  
 307  
 308  
 309  
 310  
 311  
 312  
 313  
 314  
 315  
 316  
 317  
 318  
 319  
 320  
 321  
 322  
 323  
 324  
 325  
 326  
 327  
 328  
 329  
 330  
 331  
 332  
 333  
 334  
 335  
 336  
 337  
 338  
 339  
 340  
 341  
 342  
 343  
 344  
 345  
 346  
 347  
 348  
 349  
 350  
 351  
 352  
 353  
 354  
 355  
 356  
 357  
 358  
 359  
 360  
 361  
 362  
 363  
 364  
 365  
 366  
 367  
 368  
 369  
 370  
 371  
 372  
 373  
 374  
 375  
 376  
 377  
 378  
 379  
 380  
 381  
 382  
 383  
 384  
 385  
 386  
 387  
 388  
 389  
 390  
 391  
 392  
 393  
 394  
 395  
 396  
 397  
 398  
 399  
 400  
 401  
 402  
 403  
 404  
 405  
 406  
 407  
 408  
 409  
 410  
 411  
 412  
 413  
 414  
 415  
 416  
 417  
 418  
 419  
 420  
 421  
 422  
 423  
 424  
 425  
 426  
 427  
 428  
 429  
 430  
 431  
 432  
 433  
 434  
 435  
 436  
 437  
 438  
 439  
 440  
 441  
 442  
 443  
 444  
 445  
 446  
 447  
 448  
 449  
 450  
 451  
 452  
 453  
 454  
 455  
 456  
 457  
 458  
 459  
 460  
 461  
 462  
 463  
 464  
 465  
 466  
 467  
 468  
 469  
 470  
 471  
 472  
 473  
 474  
 475  
 476  
 477  
 478  
 479  
 480  
 481  
 482  
 483  
 484  
 485  
 486  
 487  
 488  
 489  
 490  
 491  
 492  
 493  
 494  
 495  
 496  
 497  
 498  
 499  
 500  
 501  
 502  
 503  
 504  
 505  
 506  
 507  
 508  
 509  
 510  
 511  
 512  
 513  
 514  
 515  
 516  
 517  
 518  
 519  
 520  
 521  
 522  
 523  
 524  
 525  
 526

13  
0  
7  
1  
4  
2

...

7

卷之四

子

ナ、ヤカ  
五山寛

紅心



造之如之亦入衆人之手



叙  
二  
刻

矢  
柳ふたゝの初はふ女  
こたゝの取ふ人  
多々へささうなる  
かいもういえとあつて  
奇々方々うし

*[Handwritten signature]*

祝  
對、而、有、事、人、情、

矣 柳本今ものちたうしハセト云と廟しと云ふそいふと  
 御 くらうりて 秘 女こ云たうのつて 義家

秘  
女  
文  
厄  
少  
少  
少  
少  
義  
家

あはるのうた

えはうそのきさくしては来ふいり

蒼頡見鳥跡  
二字を倣ひし

のうへにせむしゑよりてもそにあやふき飛ぶ

秘  
心  
と  
人  
と  
を  
と  
し  
た  
う  
そ  
一  
心  
を  
り

世に文才仰ふらと人々を驚かす。さあつゝ生れ

うゝはるゝこと葉

五月廿四日

二葉の雲を如くしよ人小くく是を惹く所の事

一 汝等よくいふなり  
かこゝをなすべし

矣源氏御子たるは其の如き一海ありてはたはたなるは  
 氣多しんてるんたりんといふは其の多し

[illegible][illegible]

ちとらふ中のちとらふ

河蟬  
蠹  
月上  
又  
白  
臭  
和名

虫食書  
衣魚同上  
紙魚同上  
幽藟  
蠹落書  
棚韓文  
杜陵詩積

蠹艸獄劒生苦

白氏文集十四卷  
經牋白紙兩三束  
半是詩半是書

經年不展綠身病  
今日開省生蠹與

秘  
 乃にほろふしら玉も月日経て阿久れかきもぬきしとてあり  
 と定家卿のよりかきとばしなりとて

わいふとあはれいふにあらんや  
わらわへとていふにあらんや

秘川 前同

秘  
川  
方  
回



いしやいしやぬかり

葉 葉のふふ女に文相本しるすもふに

心(衆)んと云つてわづらひ

葉 葉の衆同をさうし(心)

えれさばええんもいそ物なり ねんけさあふあふれね

えの御もへり 衆り終つてハ

心 女に云

何ハちりふりや

葉 女に云(はる)成なり

ちり衆よりいそもの意の心

うら川あふいぬかり

葉のちやうやと物なりいそつつけもふふなり



